



読書で筋トレ

仕事から家に帰るとだいたい子どもの面倒を見ている事が多いですね。一緒に遊んだり、ご飯を食べたり、お風呂に入ったり、絵本を読んだり。なかなか自分の本を読む時間が取れません。仕事場では、本に囲まれています。当然自分の本を読むことなんてできません。そうなる読書の時間は通勤電車の中。

周りを見渡すと、スマホを手にしている人の方が多いです。でも僕が持っているのは携帯電話。いわゆるガラケーです。なので、電車の中では、(寝てしまわなければ)もっぱら本を読んでいます。

そういうえば、以前勤務していた店がある新潟の街はクルマ社会だったので、今の店(神戸)と比べるとブックカバーを

かけてほしいと言われることが少なかったように思います。まだまだ電車で本を読む人も多くいるということでしょうか。一方、新潟店ではオーディオブックの問い合わせがよくありました。朗読の音声はCDなどに入って売られているものです。ビジネスマンが車での通勤中にビジネス書を読む(聞く)ために探すケースがよくありました。でも、最近はオーディオブックも音楽と同じくダウンロードして購入する方が主流のようです。

電車で本を読むとなぜか集中できませんが、集中しすぎて乗り過ごしてしまうこともたまにあつて困ります。やはり電車の中では文庫か新書が一番です。コンパクトで重くないですし、日本の文庫は優れものです。でも、僕が普段よく読む本は文庫にならない本の方が多いので、結局カバンの中には重い本が入っています。

記憶に残っているのは、『模倣犯』(小学館・宮部みゆき著)。これは重かった。文庫になるのを待てずに読みましたが、上下巻でそれぞれ七〇〇頁くらいあるハードカバーの本です。上巻を読み終わったときに下巻がないと続きが気になってしまふので、上巻が終わりに近づくと上下巻の両方をカバンに入れていました。さすがに七〇〇頁の本を二冊入れたカバンは肩に食い込みました。

それ以上に大変だったのは『(民主)と(愛国)』(新曜社・小熊英二著)です。A5版で一〇〇〇頁近くあるハードカバー。しかも専門書ですので、小説のようにサクサクとは読み進めません。一ヶ月ぐらいカバンの中に入っていました。読書なのか筋トレなのか分かりません。今日もカバンの中には重い本が入っています。電車の中で読書をしつつ、筋トレに励んでいます。

(爺)

「書標ほんのしるべ」第432号

二〇一四年十一月五日発行 頒価五十円(本体四十六円)

編集・発行人

工藤 恭孝

発行所

(株)ジュンク堂書店

神戸市中央区三宮町一の六の十八

印刷所

(株)七 旺社

〒653-0013 神戸市長田区一番町二丁目一

TEL

(〇七八) 三九二一〇〇〇一
(〇七八) 五七五二二二二